

1982
PIP-ETTS
創刊号
KAWASAKI

PIP

Vol.1

ETTS



川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部会誌

あいさつ

臨床検査科同窓会支部

支部長 平 井 紀 之

念願の検査科同窓会誌を、短大開学10年目にして発行することが出来ました。皆様方には、各地でご活躍されていることと思います。

皆様が御卒業された後、短大の増築工事も終り(表紙)、また病院北側(旧2号線北側)には、体育館、病院東側(旧2号線南側)には、メディカルミュージアムも建てられ、川崎学園もより大きくなりつつあります。また、短大には、同窓会の部屋も設置されました。

検査科卒業生も、今年、新たに七期生41名がメンバーに加わりました。

このように、同窓会のメンバーは、年々増加を続ける訳ですが、この同窓会誌が同窓会員相互の情報の交換などに役立てば幸いです。

また、来年は、臨床衛生検査技術師学会が、当地岡山で開催される予定です。短大、病院共に、是非お立ち寄り下さる様、御案内申し上げます。



目 次

あいさつ	平 井 紀 之	1
同窓会誌発刊にあたり	上 田 智	2
結ばれたご縁	川 上 亀 義	3
高知より今日は	佐々木 匡 秀	4
本学のオンラインシステム	後 藤 幸 策	5
現状報告書	米 山 彼呂紀	6
5年目を迎えて	森 山 知 子	6
結婚して・・・子供が生まれて・・・	岡 本 由 美	7
卒業してはや三年	本 廣 里 次	7
六期生より愛を込めて・・・	亀 田 匠 枝	8
幸せ便り!!	泉 礼 司	8
『KASS NEWS』		9
編集後記		10

同窓会誌発刊にあたり

川崎医療短期大学臨床検査科

主任教授 上 田 智

川崎医療短期大学は今年第10回の入学式を迎え350余名の若人を新しい仲間として迎えることができましたことは真に喜ばしいことです。新しく増築された校舎も完成し、新設学科の準備も着々と進んでおります。来春には医療秘書科通信教育学部が発足の予定です。更に病態栄養科の設置準備も進行中でありまして、名実ともに医療を広く支える専門職を養成する学校として一步一步前進しております。

新入生の歓迎のことばとして川上学長はプラトンの言葉を引用され、“良くははじめられた仕事は、半ば出来たものと同じである”と物事の始めの心構えの重要性を強調されました。

臨床検査科では本年度教員組織の充実がはかられ、新たに下田健治講師をお迎えすることができました。更に従来の臨床検査科専任教員に加えて新たに松田信義教授、津嘉山朝達助教授、是沢俊輔助教授、福永浩子講師の諸先生方に積極的に教育に参画していただくことになりました。これで実習現場である中央検査部と短大とが一体となって学生教育に当れる体制ができましたことは真に喜ばしいことです。

臨床検査科では入学式に引き続いて厳しい2週間の基礎実習を課し、臨床検査で最も大切なものは何かということを体得させております。それは最後まで諦めずにやり抜くという根性です。これは医療従事者にとって大切なことだと考えます。基礎実習最後の青年の家での宿泊研修では過酷な基礎実習の日課に耐えてきたクラスメートがうちとけ合って友情を感じ相手を認め合う瞬間です。2年生の病院実習を終了し、3年生の卒業実技試験を無事終えると卒業試験、研究発表会、国家試験へと最後の総仕上げに入るわけですが、3年生秋の研修旅行はまさに正念場に向う役者の如く、全身全霊の技を披露する直前の舞台のそで呼吸を整える瞬間にも例えることができます。夜を徹して教官と学生、または学生同士人生を語り、夢をふくらませ、励まし合って心のふれ合いを感じ3年間の友情を確めあう時です。ここで体得した教官と学生の信頼感、連帯感が国家試験の修羅場で十二分の実力を発揮しう支えになっていることは疑うことのできない事実です。

臨床検査科では5年連続国家試験100%合格の輝かしい伝統をつくってくれました。このような立派な教育環境は佐々木匡秀先生がつくり上げられたものです。私共はこの伝統をうけつぎ、更に立派な臨床検査技師を世に送り出すべく努力をするつもりです。

第10回目の入学式を終え川崎医療短期大学も丁度節目にきております。大きく将来に飛躍する足固めとする必要があると考えます。この時期に同窓会の情報交換誌ができ、同窓生の皆様の御支援と御比判をうけながら益々の母校の発展を期する素地ができたことは喜びにたえません。同窓生の皆様の健闘を祈ります。

結ばれたご縁

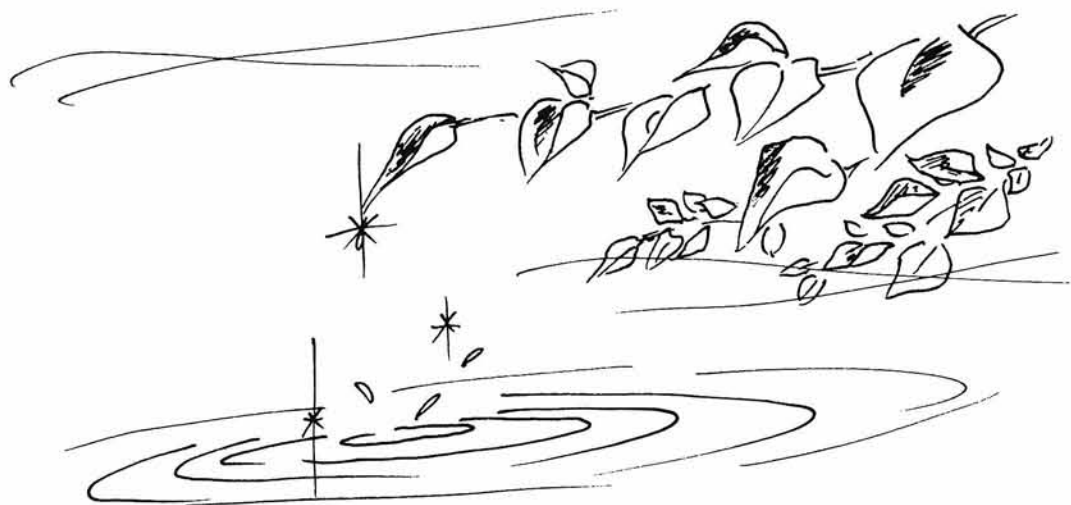
川崎医療短期大学

学長 川上 亀 義

このたび本学臨床検査科卒業生の会誌が創刊されるということを承り、まことに意義のあるものと思い嬉しく存じております。臨床検査科は本学創設以来、師弟一体となり情熱を燃えたぎらせて創学精神の実現と確立に向けて精進し、驚進を続けて来て、今や本学を支える「要」の存在の学科であります。卒業生は七回にわたり300人にも上り、夫々の職場において磨いた実力を遺憾なく発揮し、存分な活躍をしております。去る者は日に疎しと申しますが、不思議な縁で結ばれた本学での三カ年の血の滲み出るような厳しい修練の日々の中で築かれたあなた方の固い友情は却って時を経るにつれて一層深まるばかりであろうと思います。そうした思念が結集して、このたびこの会誌発行となったことなのでありましょう。

これまで忘れ難く、懐しさをいつも胸にたたえながら働く所を異にして、共に語り合い心をかよわせ会う機会を制約させていた皆さんが、今後はこの会誌を通して親しい交りができるようになったということは、何としても喜ばしい限りであります。どうかこの会誌が続いていつまでも発行できますように、そして臨床検査科同窓すべての皆さんの楽しいサロンの役目を果して、その友情をいよいよ確かなものにし、相互に啓発し合いながら、成長発展して行ってくださいることを願ってやみません。

(1982年6月15日)



高知より今日は

高知医科大学附属病院検査部

佐々木 匡 秀

若葉は燃え、風さわやかな季節となりました。川崎医療短期大学臨床検査科卒業生の皆さんは、相変わらずお元気で、職場に、家庭に意義ある日々をお過ごしのことと思います。

私は皆さんの巣立たれた川崎医療短期大学を、昨年の3月で辞し、技師を育てる所から育った技師を更に職場教育する所に移り変わって1年、新しい検査部作りに相変わらず大声と汗水を流しております。

こうして、外から川崎医療短期大学を眺めてみますと、やはり立派な短期大学になったことがよくわかります。それも、一重に皆さんが青春の3年間を私達教師にゆだねられて真に役立つ検査技師へと、青春の「ひとこま」を燃えかつ励んで来られたお陰だと思ひます。事実、今年の卒業生諸君も全員国家試験に合格されたと聞いております。

思い起こせば、今から10年前、昭和47年の11月から48年の3月にかけて、丁度私がアメリカから帰国した直後で、私自身は、よしこれから研究をやるぞと息込んだ矢先に、川崎理事長から突然に、川崎医療短期大学の創設の命を受けたのが昨日のように想い出されます。正直に申して悲しく思いました。どうしてこの俺が、何故に佐々木が犠牲にならねばならぬのだ！と、毎日毎夜苦しみました。しかしある日、これが人生だと悟った時、よしやってやろう、そのかわり同じ新しい学校を作るのであれば、その学校を出た人が誇りになるような学校、世間に川崎を出た人は使いものになると評価される学校、卒業後幾年経っても子や孫にまで、自分は川崎医療短期大学卒であると自慢できるような学校、そのような学校を作ろうと心に決めました。

48年の開校以来、1期生、2期生、3期生の諸君には随分と無理難題をふっかけてやうに思ひます。4期生、5期生、6期生の諸君には、更に輪をかけたように叱咤激励をさせていただいたと思ひております。これからはいずれも、先に書いたような建学の理念をま

っとうするためにとった手段に他ありません。

今こうして、卒業生の皆さん方がお互いに心を合わせあうための連絡誌が生まれることを聞き、一筆皆さん方へと、この稿を書き始めますと、私の手元から巣立たれた一人一人の顔が懐しく思い浮かびます。

男性の卒業生は、ほとんどが検査の職場で活躍しておられることでしょう。先輩とうまくいっていますか？後輩からは慕われていますか？今の貴方方にとってはそれが一番大切なことです。そのためには、常に自分に持ち合わせの知識をより豊富にし、技を磨き上げ、実力を備えることです。そうすれば自ずと周囲の人達から自分の存在を大切に貰える、一番容易に己の人生を生き延びる手段だと思ひます。

女性の卒業生の皆さん、約半分の方は家庭に入られ、良き夫や子供に恵まれていることと思ひます。良妻賢母、これが貴女にとって今の仕事だと思ひます。御亭主には、心ゆくまで尽くしてあげて下さい。子供さんは、厳しく育てよう努力して下さい。それが貴女に課せられた使命だと思ひます。

未婚の女性の皆さん。仕事も大切ですが、結婚することが貴女の使命です。良き伴侶をあせらずに、しっかりとつかまえて下さい。その秘訣は、魅力ある女性になることです。それは決して、顔立ちが美しいとか体が素晴らしいとかいうものではありません。貴女の一挙一動が相手にとって必要、かつ十分な動きとして受け取れる女性になることだと思ひます。(お解りですか、この意味が……。)

いずれにしても、皆さんは川崎医療短期大学臨床検査科の卒業生です。後輩も続いております。世間も次第に理解し始めてくれます。どうかあせらず、騒がず、毎日が意義あるように生きて下さることを、遠き高知の地より祈っております。機会がありましたら、是非一度高知へも遊びに来て下さい。お酒がおいしい所ですよ！お待ちしております。

(1982年4月)

各期卒業生より

本学のオンラインシステム

高知医科大学附属病院検査部

一期生 後 藤 幸 策

「皆さん今日は」お元気で仕事に私生活に頑張ってお過ごしのことと思います。高知では岡山と違って田んぼでは蛙がゲロゲロ鳴いており、また田植えも忙しい、既に毎日のようです。

同窓生で本学に赴任したのは三期生の小倉技官、六期生の奥宮、片岡、森田、松尾技官と私の六名です。赴任してもう一年が過ぎ、苦しい毎日の連続でしたが振り返ってみると楽しくもあり、又建設の喜びをかみしめているこの頃の心境です。

さて、高知医大最大の特徴であるオンラインシステムと中検におけるベルトラインシステムについて簡単に皆様に御紹介したいと思います。まず、オンラインシステムでは、その中枢となる情報処理部があり、そこにはIBM社のHOSTコンピューター、4MB2台が、またCRT100台が病棟、診療科、薬剤部、中放、中検、医事課、病歴等のあらゆる必要箇所を設置されており、本システムが形づくられています。患者IDの受付、患者予約、会計、薬剤処方、カルテ管理、給食、臨床検査等の広範な業務が行われています。

検査業務に関しては、先ず検査データーがHOSTのCRTを使って病棟および外来でなされます。外来患者のオーダーは患者IDを記入することにより、又病棟では、その場であらかじめプリンターにセットされている採血指示票が打ち出されます。その一部が検

体用のラベルになっており、それを試験管にはった後に採血が行われます。検査部にはシリーズ/1というIBMの250KBのコンピューター1台、MT1台、プリンター5台、CRT7台が設置されています。各々の検体にはS/1のCRTでオーダー確認がなされ会計情報がHOSTへ送信された後にそれぞれの検体について検体Noがふられ、次いでバーコードラベルがはられ、バーコードリーダーでシーケンス指示がなされこれで実際の測定前の準備が終わります。

ワンフロアの真中を真赤なベルトラインが走り、CBC測定でCC800、電解質測定でNOVA4、血糖測定でグルコナイザー、生化学スクリーニングの日立705の各分析機にベルトラインが連結し検体がラックに乗って各分析機に流れて行きます。測定されたデーターはS/1のインテリジェントターミナルコンピューターのディスクに書きこまれS/1に送信されます。そしてHOSTコンピューターへと送信され、検査結果は病棟および外来のCRTで見られます。その時間は採血から結果参照までに10～20分もあればよいわけです。

5月、6月は鰹のうまい季節です。青い空青い海、本当に高知はよいところ一度遊びに来て下さい。皆様の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。(1982年4月)



現状報告書

清梁会 戸田病院検査部

二期生 米 山 彼呂紀

〈追 伸〉

月日の経つのは早いもので、私が卒業して早や5年が過ぎ、26才になっています。卒業した年に、4期生で、臨床の男子で1番最初に結婚するか、アンケートを取ったそうです。1番は、1期生の上田さんを差し置いてかくあろう私が1番手で、2番は、4期生の金本君でした。それなのに、な・なんと!!米山君は、結婚するわ、金本君も結婚するわ、残っている私はいったいどうなるんだ!!米山君から結婚後電話があると必ず、『結婚はいいゾー、おまえも早くしろ』と言われております。とにかく幸せな米山彼呂紀・三紀子(旧姓一継山〔3期生〕)夫妻にいつまでも幸多かれと、いつも願っております。早く二世を見せて下さい。

今まで結婚された皆さんも、いつまでもお幸せに……………

2期生 三 宅 康 之



先輩、同期、後輩の皆様、元気ですか?

表現能力のない小生が、何故このような大それたものに顔を出したか?……。愚痴は、後にして、「現状報告せよ!」との事なので。

現在、小生は、昔城下町で栄えた武家屋敷の立ち並ぶ高梁へ帰って来た。その中央部にある戸田病院に勤務している。病院の前には、桜並木を挟んで伊賀谷川が流れ、後には、頼久寺、松山城があり、とてもすばらしい環境の中、毎日検査に臨んでいる。

月日のたつのは早いもので、こちらに帰って早や2年。川大勤務中には血液にしか目を向けていなかった為、このような中病院に入って多分野の検査を行わなくてはならないという現状は、非常に厳しいものであった。それも2年去った今では、苦手な生理、化学、血清…etc.もどうにかこなしている。また、対人関係の難しさ、民間病院の厳しさをも知った。今振り返ってみると、学生時代の忙しかった実習が、非常に役に立ち、今となっては懐かしい良き思い出となっている。

そして、この26年間女気のなかった小生にも、この3月には念願の嫁ハンも射止める予定だ。バンザイ。(1982年2月)

5年目を迎えて

川崎医大附属病院中央検査部

三期生 森 山 知 子

早いもので、私達三期生が川崎医療短大を卒業して、5年目の夏を迎えようとしています。5年目といえば節目のようなもの、それぞれの生活の中で、それなりの区切が出来てがんばっていると思います。当、川崎医大附属病院に残っている数少ないメンバーも個々のパートリーダーとなり、現在活躍中です。そして、第2の結婚ブームでもあり、今年になって6月現在までの半年間に、5人結婚されました。(2月一田中さん、3月一継山さん、4月一上垣さん、5月一藤内さん、平山さん)。

ちょうどここまでで半分、折り返し地点に達しました。(独身のみなさん、いくらがんばっても後は後半です。焦らず、すてきな伴侶を見つけましょう。)

昨年10月に行なった同窓会には、遠路にもかかわらず多数の方が参加してくださいましてありがとうございます。牛窓とみ川旅館におきまして、佐々木先生、佐藤先生、土井先生に出席していただき、盛大に催すことができました。今年もよろしくお願いいたします。

結婚して……子供が生まれて……

四期生 岡 本 由 美 (旧姓 小万)

今年も暑い夏がやってきます。只今私は、三ヶ月の乳飲み子(翔と云います)をかかえて大奮闘です。

思いおこせば三年前、夢にまで見た臨床検査技師国家試験合格も今となれば何のその、本当に腰かけのような地元での就職、佐々木副学長の目を盗んでの三年間プラス二年間のつきあいの後、妥協による結婚(お互いにそう思っているのですが……)。臨床検査技師とも思えぬ不覚による妊娠・恐怖の悪阻・流産



の危機・早産の危機と色々ありましたが、無事出産……と、そして今に至っています。

目の回るような毎日で、他の独身貴族の友人等を見ると、現実を追われている自分と比べてたりして少々後悔しつつ、子供の健康状態に右往左往して病院に走って医者に笑われても、泣き叫んだ後眠った子供の顔を見ると、平凡に親子三人が生活できる事が、今の私にとっては最高の幸福なんだと、しあわせの上にあぐらをかいて実感している今頃です。

卒業してはや三年

川崎医大附属病院中央検査部

五期生 本 廣 里 次

四期生より賢くなく、六期生みたいに派手ではなかった、言わゆる非個性派集団の五期生も、卒業以来なんと三年目を迎えてしまいました。

昨年、やっと同窓会を行うことができましたが、準備が大変で、全員が揃うことはなかなか難しいものだと思います。しかし、卒業以来、初めて顔を合わす人も何人かいて、懐かしさとともに、やって良かったと思いました。

すでに、喉もと過ぎれば、熱さなんか全く忘れてしまい、今はみんなそれぞれの道を歩んでいるようでしたし、研修旅行の時、摩周湖が霧で見られなかった為か、既婚、婚約者も含めると、なんとBEST10は出揃ってしまい、もうすぐパパやママになる人もいます。

なんとなく懐かしさを感じた人は、今夜卒業アルバムでもひらいて、すこし遠のいてしまった友人に電話をかけてみてはいかがですか。

六期生より愛をこめて……

川崎医大附属病院中央検査部

六期生 亀 田 匠 枝

一年生の頃、二年生や三年生の先輩達が神様のように見えました。二年生の頃、やはり三年生は崇高な存在でありました。(ちょっと口が曲がりそうですが……)先輩達が国家試験目指して頑張っておられる姿を見て、自分達も頑張らなければ、医療の道に明るく輝く臨検の星となるんだと心に堅く誓いつつ、夜ごと知らぬまにベッドへもぐりこみ、恐ろしい朝を迎えておりました。月日は流れて季節は巡り、いつしか私達も三年生となり左腕に肛門、じゃなかった黄門様も思わず地面にひれ伏すとちまたで噂されている茶色のワッペンをつけたのでありました。やったね!!これで我々も神の仲間に入れたのだ。と思ったのは大きな間違いで、我々は神様になんかなれなかったのです。

仰げば尊しっていう歌は泣ける歌だったのです。こんなに泣いても大丈夫かしらと思う程泣けてしまいました。卒業して一年と三ヶ月たった現在、みんなはどんな暮らしをしているのでしょうか。全国各地に散らばって、地域医療に貢献していることと思います。六期

生の中では、まだ現在のところウェディングマーチが聴かれません、今年あたりは、そろそろ聴くことができるのではないかと私個人といたしましては恐れているのであります。自分で言うのもなんですが、我々六期生は、美男美女、紳士淑女の固まりで、(嗚呼、これで私の口は完全に曲がってしまいました。)みんなすてきな旦那様、奥様になるに違いないと信じています。

昨年、私達は悲しいことに仲間のひとりを失いました。多くの者が彼女の優しさに触れ心慰められたことがあったでしょう。あまりに突然のことで今でもまだ信じられないです。命のはかなさを知らされると同時に、今この時の大切さを知ることができました。我々は単に臨床検査技師になるためにだけ短大で勉強してきたのではなく、もっと多くのものも学ぶことができたに違いありません。後輩として、また先輩として、この川崎医療短期大学で会えたことが誇れるような存在でありたいものです。皆さんと再会できる日を楽しみにしています。

幸 せ 便 り

川崎医大附属病院中央検査部

七期生 泉 礼 司

ばくもやっと給料のもらえる一社会人になりました。まだまだ仕事も失敗が多く、上司に迷惑をかけています。でも、両親にはもう手はかけず、ひとりで生活できるようになりました。それで、今回やっと決心しました。まだ早いと両親にも反対されました。しかし、やっと相方の両親を納得させ、今年の秋、結婚する事にしました。この事はまだ親友にも先輩にも何も言わずにいました。この紙面を通じて、同期生・先輩・先生方に報告しま

す。当分二人で働いてやっという生活ですが、二人で力を合わせ、幸せな家庭を築き上げるつもりです。皆さん、応援して下さい。相手の女性は……なんていう便りを待っています。僕もそんな相手早くみつきたいものですが、こんな楽しい話は歓迎です。どんどん手紙下さい。七期生第一号のめでたい人は誰になるでしょう。

皆さんの予想はどうか?

〈短大より〉

会員の皆様方には、仕事や家事にとご多忙の毎日をすこやかにてお過ごしのことと思います。この程臨床検査科同窓会より、会員の情報交換や近況報告等を交えて、会員相互の親睦を深める目的で機関誌を発行する事になりました。そこで最近の短大及び臨床検査科の様子を皆様にお伝えします。

- ①校舎棟の整備について：昨年の3月より増築工事にとりかかり、前校舎に180度対照的に建築され、この3月に完成しました。一度御来校下さい。
- ②学科増設について：58年4月開校を目指して臨床栄養科と医療秘書科の通信教育の開設準備が着々と進んでいます。
- ③臨床検査科第7期生（41名）が卒業しました。これで卒業生総数は296名（2名死亡）となりました。
- ④新しく第10期生が入学してきました。この学年の担当は鎌田先生です。
- ⑤4月から下田先生が新しく赴任して来られました。

以上の様に我が母校は着実に躍進を続けております。又、私も第9期生の担任として毎日学生の指導・研究と明け暮れています。他の諸先生方も母校の発展の為に日々たゆまぬ努力を続けております。会員の皆様方にも体気をつけ尚一層のご活躍をお祈り致します。

(1982年4月)

川崎医療短期大学同窓会
松丘会会長 小郷正則



〈同窓会より〉

臨床検査科同窓会の目標を次の様に置きたいと思っています。

- ①就職情報の交換：皆様の職場及び近くの病院で人をさがしている時に連絡して下さい。これは会員相互間で職場をかわりたい人や新卒業生の就職先、又現在家庭にいて新しく仕事を始めたい人達の為に役立てたいと思います。

(連絡先)

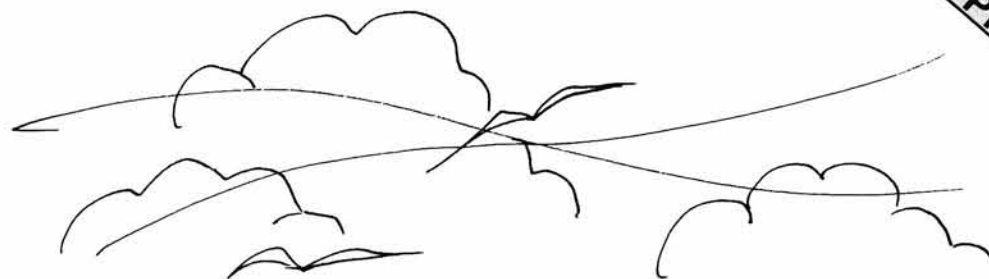
○小郷正則 勤務先 ☎ (0864) 62-1111
内線 3037

自宅 ☎ (0864) 62-2827

○各期卒業生の代表者

- 1期生：小郷正則 山元しのぶ
2期生：三宅康之 井澤宏美
3期生：小島健次 森山知子
4期生：高松邦樹 樋本知子
5期生：本廣里次 森藤睦美
6期生：武田譲 河口勝憲 猪平睦美
7期生：泉 礼司 橋本典子

- ②全体の例会を年1度開催する事：これは2～3年がかりで進めてゆき、毎年3年生の研究発表会の日に開きたいと思っています。
- ③卒後教育について：全体の例会の日に教育講演及び会員の発表の場を作りたいと思っています。
- ④来年、岡山で行われる日本臨床衛生検査技師学会（会期4/28～5/1）の際に、同窓会総会を開催します。
- ⑤毎年開かれる臨床衛生検査技師学会の時に、その開催地で同窓会を開きたいと思っていますので、皆様の御協力をお願い致します。
- ⑥氏名、住所等の変更があった場合は、直ちに本部へ連絡して下さい。



編集後記

当初、張り切ってとりかかった割に、予定を大幅に遅れて“PIPE TTS”が完成しました。それと同時に臨床検査技師という責任感が再び実感を伴いはじめます。仕事を終え、カンファレンス室で机を囲んでの編集会議。あわただしく過ぎる時間の中で、初めての試みに希望をたくして頑張ってきました。TAKE OFF! 卒業後は皆、それぞれの空へ飛び立ちます。再会と激励の思いを込めて、何かを形あるものとして残すことができ、うれしく思います。この“PIPE TTS”の各ページが皆さんの思い出の一つとなれば幸いです。

編集委員

武田 譲 (六期生)
河口 勝 憲 (六期生)
猪 平 睦 美 (六期生)
橋 本 典 子 (七期生)



1982年7月1日 発行

編集発行 川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部
〒701-01 倉敷市松島316番地

印刷 柳本印刷株式会社
〒719-11 総社市総社360番地

PIP-ETTS
Vol.1